

# 渥美半島の菜の花浪漫街道

愛知県田原市



伊良湖岬灯台

伊良湖岬に漂着したヤシの実。民俗学者・柳田国男はこれを見て「海上の道」を着想し、島崎藤村は恋路ヶ浜をモチーフに「椰子の実」を書いた。黒潮が寄せ旅情あふれる渥美半島は愛知県の南端にあり、北に三河湾、南は太平洋に囲まれた温暖な地。幕末の先覚者、渡辺崋山ゆかり

の城下町・田原市は、東海道の豊橋市付近から南西に伸びた半島の中央にあり、市域はほぼ半島全域に及ぶ。三河湾を一望できる蔵王山など、美しい自然に恵まれたことが日本風景街道登録の「渥美半島菜の花浪漫街道」である。

安田和司さん(68)と理事の玉越弘志さん(61)が、真っ黄色に咲き誇る菜の花畑で出迎えてくれた。花畑で黄色に咲き誇る菜の花畑で出迎えてくれた。花畑で黄色に咲き誇る菜の花畑で出迎えてくれた。

田原市環境部の渡辺澄子エコエネ推進室長は、登録の経過を「『たはらエコ・ガーデンシティ構想』とキーワードの『浪漫街道』『菜の花』を加味し、循環型社会の風景街道を目指した」と語る。「ここはアクセスが悪

く海に囲まれ風が強い。地域の活性化は広域的に考えてきた。伊良湖岬などの観光資源と、縄文の吉胡貝塚や東大寺大仏殿の瓦を焼いた窯跡などの史跡を活かし、年間300万人の観光客を見込んでいる」と渡辺室長。

田原市にとって平成の大合併は大きな転換期となった。蔵王山頂に設置された風力発電装置は新生「エコ・ガーデンシティ」のランドマークだ。「恵まれた環境と自然を大切に、当たり前に行ける都市作り、それがエコなのです」と渡辺室長は言う。



田原市は、東海道の豊橋市付近から南西に伸びた半島の中央にあり、市域はほぼ半島全域に及ぶ。三河湾を一望できる蔵王山など、美しい自然に恵まれたことが日本風景街道登録の「渥美半島菜の花浪漫街道」である。

田原市は、東海道の豊橋市付近から南西に伸びた半島の中央にあり、市域はほぼ半島全域に及ぶ。三河湾を一望できる蔵王山など、美しい自然に恵まれたことが日本風景街道登録の「渥美半島菜の花浪漫街道」である。

## 地域愛する“人々結集”

道パートナーシップ会議を設立した。「田原菜の花エコネットワーク」の副理事長、

遊休農地を菜の花畑に変えたNPO法人「田原菜の花エコネットワーク」の安田和司さん(右)と玉越弘志さん。左写真は(上から)①エコ・プロジェクトに取り組む横田浩一係長(左)と渡辺澄子室長②太陽熱利用の蓄電パネルが屋根に並び田原市の住宅団地③ゴミを炭に変える「炭生館」



安田さんは栽培しやすい直時きできる菜の花に着目した。「自分でトラクターを出し、四苦八苦して花畑を育てました」。これを見て市も積極的に支援するようになった。「発想の転換が大事だった」という。息子はイチゴ観光農園を経営、自らはスナックエンドウやメロンを栽培する。

# 日本風景街道 一輝く人たち

3

田原市の農業産出額は全国1位である。トヨタ自動車の工場や専用埠頭もあり、自動車関連企業約65社が進出、農工商がバランスよく発展している。市は「たはらエコ・ガーデンシティ構想」に基づき、7つのプロジェクトを進める。



整備前の道路幅員は6mで、車が駐車すると対面交通にも支障が出る状況だった。「私も350万円を個人負担しました。自分が切腹覚悟でやらないとは動かない。町の活性化は切り口をどうするかですが、それだけでは行政は動かない」。

も故郷のお役に立てば」と、積極的にNPOに加わった。「近趣近縁。人の後半は会社社会の上下関係でなく気の合った同士、本来の人生を過ごしたい。残り少ない人生を楽しまなければ」と考

「私たちは地域づくりを求めています。市がエコ・民間地部分を8・2の店を道路から8m奥に後退させ近隣にも呼びか

故郷を愛する伊藤さんの情熱が地域を動かした。この通りの英断は今、全国の商店街の注目を集めている。

田原の城下町は500年の歴史を持つだけに、市内内の街並みは複雑だ。その一面に整然とした街並みが開けた。旭町



店舗を後退させ、幅広い商店街作り成功した旭町はなとき通り

整備前の道路幅員は6mで、車が駐車すると対面交通にも支障が出る状況だった。「私も350万円を個人負担しました。自分が切腹覚悟でやらないとは動かない。町の活性化は切り口をどうするかですが、それだけでは行政は動かない」。

「はなとき通り」のカブた。

「はなとき通り」のカブた。年がかりで地元を説得し隣地境界部分に多目的広